

公募研究 A02 (課題番号:08205103・09202103)

対馬・朝鮮の「琉球関係史料」集成とその情報化

研究代表者:松原孝俊・九州大学・言語文化部・教授

1. 研究項目: A02 環東シナ海地域間交流史
2. 研究課題名: 対馬・朝鮮の「琉球関係史料」集成とその情報化 (課題番号: 08205103)
画像データベース「韓国に残る琉球史料」集成の作成と琉・朝間交流史の研究
(課題番号: 09202103)
3. 研究期間: 平成8年度・9年度
4. 配分研究費: 平成8年度 1,100千円
平成9年度 1,100千円 合計 2,200千円
5. 研究組織(氏名・所属機関・部局・職)
(研究代表者) 松原 孝俊:九州大学・言語文化部・教授
(研究分担者) 長 節子:九州産業大学・国際文化学部・教授
(研究分担者) 平木 実:天理大学・国際文化学部・教授

6. 研究目的

第1の目的は、朝鮮に残る「琉球に関する史料所在情報」に関する現況確認とその詳細な目録作成にある。

第2の目的は、『朝鮮王朝実録』中の琉球関係記事のより網羅的な収集である。すでに本研究班は報告書『韓国の沖縄関係資料情報(1)』を刊行し、さらに班の代表者のホームページで公開したが、より完全なものへと押し進めたい。さらには李朝時代に編纂された『承政院日記』(全3047巻)、『日省録』(全1329巻)、『備辺司謄録』(全273巻)や、あるいは未公開史料を発掘しながら、琉球関係史料を可能な限り収集し分析したい。

第3の目的は、対馬に重心を置きながら、琉朝関係史を考察する事にある。具体的には「朝鮮への琉球使節の研究」に従事し、琉球からの正使に加えて偽使にも関心を広げて、研究を展開する。

この研究は、主に研究分担者の長節子氏が担当する。

歴史的位置を考えるまでもなく、本研究班の役割は、沖縄・対馬・朝鮮の関係を、グローバルな面として把握し、有機的な関連の下で研究を展開することにあると考え、環東シナ海地域における漂流漂着に関する研究の推進が、第4の目的である。頻発した漂流事件の時期を検討することにより、航

海や遭難の季節性、さらには季節風との関係が解明されるばかりでなく、漂流者への尋問記録は、航海の目的・航路・乗組員・積み荷等に関する情報の宝庫であり、外交・交易を中心とする当時の地域間関係へのアプローチを可能にする。そればかりでなく漂流者送還のプロセス（琉球の接貢船・護送船、朝鮮の燕行使など）の検討からは、当時の国家権力のありかた（1684年の清朝の展海令など）や外交・通商関係の枠組みが明確になる。また、漂流者の到来にそなえて設置された各種通訳（日本の唐通事・朝鮮通事、朝鮮の漢語・倭語・琉球語の訳官など）は、漂流・漂着が文化交流の契機としての役割をはたしたことを示している。さらに漂流は、民衆レベルでの国際交流であり、これを通じた海外情報の流布にくわえ、文化の伝播の可能性も秘めている。

以上のような観点にたつて、本研究班は、韓国の研究者とも連携して日本の近世を中心に環東シナ海の漂流・漂着データベースの作製に着手する。とくに朝鮮・琉球間に発生した1件1件の漂流・漂着事件の実態をあきらかにするために、その事件を記録した琉球・中国・朝鮮・日本4カ国の史料（琉球の『歴代宝案』・中国の『档案』・朝鮮の『日省録』など）の突き合わせを行いながら、数多くの情報を入手することである。

本研究班の目的は、この成果をふまえ、環東シナ海諸地域（日本・中国・朝鮮・琉球）間の、近世を中心とした時期の漂流・漂着年表をさらに整備し、データベース化するだけでなく、上記の観点にそった研究を韓国・中国と連携しながら推進するところにある。

第5の目的は、すでに韓国における沖縄研究の現段階（1995年まで）を知るために「朝鮮・琉球沖縄交流史研究目録」（『沖縄の歴史情報』ニュースレター、第5号）を公表したが、その後の補充に努め、1997年に至るまでの研究文献情報を網羅することである。

7. 研究実施計画

具体的な作業手順としては、まず『朝鮮王朝実録』をはじめとする朝鮮の各種史料中の琉球関係記述の網羅的収集とイメージスキャナーを活用した画像処理が先決である。

漂流研究：研究代表者はすでに朝鮮・琉球間の漂流・漂着に関する暫定的な一覧表を発表したが、それは不十分な内容である。で収集された史料に加えて、東シナ海の漂流・漂着関係基本資料を整備しつつ、漂流・漂着年表データベースの作成が急務であろう。ただし本研究班の構成メンバーの担当地域からして中国 琉球、中国 朝鮮、朝鮮 日本、日本 中国については取り扱わず、もっぱら朝鮮 琉球間に限定して年表の作成と充実に努めることとする。

一方で漂流年表の分析にも着手したい。(1)漂流の季節性、(2)漂流者への尋問記録による交通・交易の実態、(3)漂流者の送還体制、(4)通訳と言語学習、(5)海外情報の流布などの観点から、年表データの分析が予想される。

韓国国会図書館・韓国中央図書館から公表された学術論文データベースを活用しながら、「朝鮮・琉球沖縄交流史研究目録」を完成させたい。

8. 研究経過

1996年に公開された『朝鮮王朝実録』CD ROM版が日本でも発売され、研究分担者の平木実氏がそれを入手なされたので、それを利用した語彙「琉球」の検索が可能となった。本研究班の成果である『韓国の沖縄関係資料情報(1)』を改定・増補しながら、さらに精度の高い研究資料情報となるよう

に努力した。実際には、100項目近く追加した増補版を作成した。

朝鮮民主主義人民国内に残る「琉球に関する史料情報」の所在の目録作成に関してであるが、申請者が所蔵する各種『図書館蔵書目録』などを利用するが、残念ながら現況確認ができず、今後の課題として残された。

本年度の研究題目に即して、研究分担者の長節子氏は「朝鮮前期の琉球使節の研究 主にその偽使について」をとりあげて、独自の研究を進展させた。特に長氏は宮崎県都城島津家に伝来した「琉球国王宛の朝鮮国王文書」の高い資料的価値に着目して、その専門領域からのアプローチを試みた。現地での調査も終了しており、研究班内の意見交換と資料交換などを通して解析に着手した。

本研究班は、本重点研究費とは別な予算にてソウル大学校奎章閣・韓国国史編纂委員会等での史料調査を行い、新たな琉朝関係史料として、

- 1, 『接待倭人事例』(1冊・89張。ソウル大学校奎章閣所蔵、図書請求番号9753)
- 2, 『接待倭人事例日例』(1冊・144張。ソウル大学校奎章閣所蔵、図書請求番号16024)
- 3, 『漂倭人送贈録』(1冊・73張。ソウル大学校奎章閣所蔵、図書請求番号12884)
- 4, 『漂倭人送回謝贈録』(1冊・188張。ソウル大学校奎章閣所蔵、図書請求番号12920)
- 5, 『全羅道濟州牧漂到琉球国人六名身上所着所持ト物駄数并録成冊』(1冊・6張。ソウル大学校奎章閣所蔵、図書請求番号16972)

6, 『濟州啓録』(5冊、写本。ソウル大学校奎章閣所蔵、図書請求番号15099、「濟州啓録」大韓民国文教部国史編纂委員会編『各司贈録 19、全羅道編 2』大韓民国文教部国史編纂委員会編, pp. 1-228

7, 「堂上 光緒六年正月去己卯冬三朔濟州三邑上錢穀會計成冊」(ソウル大学校奎章閣所蔵、架蔵番号: 19381-6-6)

8, 『朝鮮人日本工漂流記・日本人朝鮮并大清工漂流記・朝鮮国より唐人并南蛮人送 来記、四番』韓国国史編纂委員会宗家文書記録類(図書請求番号3506)

9, 『寛永十一年ヨリ元禄六年迄、朝鮮人日本并琉球江漂流記・日本人大清并朝鮮江 漂流記』韓国国史編纂委員会宗家文書記録類(図書請求番号6567)

などを確認した。

松原班では、1996年10月10日に九州大学六本松キャンパスにおいて「東アジアの漂流・漂着研究会」を共催した。この勉強会の主題は「日朝漂流・漂着民の送還をめぐる諸問題」であり、3名の発表があった。また韓国で精力的に琉朝間の漂流・漂着の問題を扱ってきた韓国国史編纂委員会李薫研究員にも参加を願い、李氏の研究発表も聞くことができた(概要は、『歴代宝案研究』第8号に収録)。なお、本研究会の特色の一つとして、「沖繩の歴史情報研究」計画研究班・公募研究班のそれぞれの垣根(6班)を越えて、本重点領域研究内で知己を得、「漂流・漂着」に関心を寄せる研究者相互が自発的に連携を取り合い、その研究の深化を求めたところにあると言ってよい。平成8年度に小林茂氏(九州大学)を研究代表者とするこの組織(小林茂・丸山雍成・森川哲雄・松原孝俊・佐伯弘次・真栄平房昭・豊見山和行・池内敏・鶴田啓・木部陞昭ら)に対して、科学研究費基盤研究(C)「研究課題: 国際交流から見た東アジアの漂流・漂着」が交付され、本重点研究と密接な連携を保ちながら、各方面にわたる研究を実施した。その研究成果の一部が研究報告書「国際交流から見た東アジアの漂流・漂着」(平成9年3月)である。

琉球・朝鮮間の漂流・漂着データ・ベース・フォーマットの作成作業に着手し、暫定的に次の項目を選定した。

- 1 史料名、2 記載日、3 記載項目、4 記載のフォーマット、5 漂流・漂着時期、6 漂流者名と人数、7 漂流者の出身地、8 漂流者の民族・国籍、9 漂流・漂着地、10 本国への送還経路とその時期、11 自力回航かどうか、12 その他

本研究班では、前近代における琉球・朝鮮間の漂流・漂着年表の作成に精力を注いだ。管見によると、琉球と朝鮮の間で発生した漂流・漂着事件は、朝鮮 琉球が40件、琉球 朝鮮が27件であった。これを材料に検討した時期区分論を試みに提示すると、次の通りである。

第1期 - - 国王使や対馬・九州人などの通商者などによる直接的な送還時代

(1029?~1659)

第2期 - - 琉球・薩摩・長崎・対馬ルートによる送還時代

(1660~1683)

第3期 - - 福州・北京ルートによる送還時代(1684~1870)

そこでこれらの個別的な事件を関係各国(琉球・朝鮮の当事国は言うまでもなく、経由国である中国・日本の4カ国)のそれぞれの史料を対照しながら、事件の全貌を浮かびあがらせることで、資料的制約の壁を乗り越えたいと願った。次に紙面の関係上、1814年に発生した漂流事件1件のみ説明しておきたい。

[琉球史料] 嘉慶19年(1814)11月15日、朝鮮人5名が多良間島(宮古諸島)に漂着、翌年3月7日多良間島より移送(宮古在番記,p213)

嘉慶20年(1815)、朝鮮国全羅道船1隻、6名乗り組が宮古島に漂着。船は老朽化しており焼却。沖縄本島経由で送還するが、途中広東省高州府電白県に漂着、翌年福州経由で帰還(『中山世譜』巻11,pp.209-210)

嘉慶19年(1814)11月3日に出帆した朝鮮国全羅道の千一得など7名が、風にあい漂流。途中1名が病死して、11月15日に太平山に漂着。保護して船を焼き、嘉慶20年(1815)5月24日泊村に移送。康熙23年(1684)の指示にしたがい、福建に送還する[『歴代宝案』2集、巻118、台湾本,pp.5371-5374、嘉慶20年(1815)8月13日]

[中国史料] 嘉慶19年(1814)9月8日に出帆した朝鮮国全羅道の千一得など7名が漂流。1名が死亡して、琉球に漂着。漂着中国人とともに福建に移送されるが、嘉慶20年10月4日に粵東電白県に漂着。北京に移送(第一歴史档案館編『清代中琉関係档案選編』北京華書局出版,1993年、嘉慶朝,164号、1巻、P.48)。

[朝鮮史料] 全羅道民、千一得など7名が琉球国に漂着したが、純宗16年丙子(1816)に北京経由で帰還[通文館志、巻11、15丁,p.206]

朝鮮国全羅道人、千一得など7名が、嘉慶19年9月8日に出帆して風に合い漂流、1名が溺死して3名が琉球国に漂着。救助されて北京に送られ送還。(『同文彙考』原続、漂民我国人、pp3548-3550、嘉慶21年6月等)

[付記] 高良倉吉の示す旧琉球藩評定所の漂着関係書類リストの(22)「宮古島ヨリ送

来候漂着唐人朝鮮人福州へ送届候馬艦船扇帆日記」(『沖縄県史料』前近代5、漂着関係記録) 嘉慶22年(1817)は、この漂流に対応か？

いかなる史料であれ、琉球間に発生した個別的な事件に関する一連の史料群を体系的・網羅的に集成することは重要であろう。今後、この種の研究を進めるための一つのモデルとして、ある漂流・漂着事件を取り上げて、単に朝鮮史料中の記事のみならず、各地に残る関係資料を一纏まりに結びつける予定である。

松原は、漂流事件に活躍した通詞の問題を取り扱った。朝鮮の琉球語通詞・琉球の朝鮮語通詞の存在を本研究の中で明確に示し得たのは、本研究班の成果の一つである。

9. 主要研究業績

- 松原孝俊「雨森芳洲と対馬藩「韓語司」の設立経緯をめぐって」(共著)(『日本論集』第9号、韓国・中央大学校日本学研究所、1997年2月、31-55頁)
- 松原孝俊「雨森芳洲と対馬藩「韓語司」における学校運営をめぐって」(共著)(『比較社会文化』第3巻、九州大学大学院比較社会文化研究科、1997年3月、149-159頁)
- 松原孝俊「雨森芳洲と対馬藩『韓語司』での教育評価について」(共著)(『言語科学』第32号、九州大学言語文化部、1997年3月、105-122頁)
- 松原孝俊「蔚原語学所と釜山草梁語学所の設立と廃止をめぐって」(共著)(『言文論究』第8号、九州大学言語文化部、1997年3月、47-59頁)
- 松原孝俊「琉球の朝鮮語通詞と朝鮮の琉球語通詞」(『歴代宝案研究』第8号、沖縄県立図書館史料編纂室、1997年3月、33-55頁)
- 松原孝俊「雨森芳洲の外国語教授法について」(『中央大学校日本研究所国際学術発表会要旨集』中央大学校日本研究所、9~11頁、1996年6月)
- 松原孝俊「命を五年縮候 - 雨森芳洲と田川孝三博士」(『RADIX』第11号、九州大学全学共通教育広報、1997年1月、4~5頁)
- 松原孝俊「朝鮮から琉球へ、琉球から朝鮮への漂流年表」(共著)(『漂流・漂着からみた環東シナ海の国際交流』平成8年度科学研究費報告書、1997年3月、67-94頁)
- 松原孝俊「『憲章姓家譜』解説及び解題」(共著)(『漂流・漂着からみた環東シナ海の国際交流』平成8年度科学研究費報告書、1997年3月、25-53頁)
- 松原孝俊「松原新右衛門『朝鮮物語』解説及び解題」(共著)(『漂流・漂着からみた環東シナ海の国際交流』平成8年度科学研究費報告書、1997年3月、55-101頁)
- 松原孝俊「朝鮮時代後期の漂民の送還を通してみた朝鮮・琉球関係」(李薰著、共訳)(『歴代宝案研究』第8号、沖縄県立図書館史料編纂室、1997年3月、1-32頁)
- 松原孝俊『朝鮮史料の中の琉球沖縄関係資料情報』(文部省科学研究費重点領域「沖縄の歴史情報」研究報告書(課題番号07205203)、1998年3月刊行予定)
- 長節子「九州における国際交流の研究 - 室町時代と平成時代を中心に」(共著)(『九州産業大学産業経営研究所報』第30号、1998年3月刊行予定)
- 長節子「竹内先生と対馬史料」(『竹内理三 人と学問』東京堂出版、1998年3月刊行予定)
- 平木実「園丘檀祭礼儀礼をとおしてみた王権と官僚制の一側面」(原文は、朝鮮語文)(『朝鮮王朝時

代史学会第一回国際学術会議発表論文集』朝鮮時代史学会、1997年、pp1 - 15)

平木実「朝鮮時代末期の駅の雇工と土婢について - 魚川駅志に見える事例分析 - 」(『朝鮮学報』第165号、平成9年10月号(平成10年3月刊行予定) 朝鮮学会)

平木実「漢字文化圏におけるハングル文化の展開」(『外国語教育』第24号、天理大学語学教育センター、1997年3月刊行予定)

平木実「学術資料の情報化と韓国」(『センター通信』第53号、天理大学語学教育センター、1997年12月、p.1 - 2)

10. 情報化資料の概要

本研究班のすべての研究成果は、松原のHomepageにて公開する予定である。

(1) 『朝鮮史料の中の琉球沖縄関係資料情報』 - 『朝鮮王朝実録』や『日省録』などの諸資料から関係記事を抜粋し、リンクを張ったもの。

(2) 琉球・朝鮮間の漂流・漂着事件年表と、その事件を記録した朝鮮・中国資料をリンク形式で画像情報を提供するもの。